

2019年3月7日 木曜日

## 開会挨拶・顧問代表挨拶

小林真也実行委員会委員長による開会挨拶のあと、野志克仁松山市市長（代読：北澤剛松山市副市長）による松山市への歓迎の挨拶、土居範久顧問による顧問代表挨拶が行われた。



小林真也 実行委員長



北澤剛松山市副市長



土居範久顧問

## 基調講演

総務省サイバーセキュリティ統括官竹内芳明氏が国会対応のため欠席され、総務省サイバーセキュリティ統括官付参事官赤阪晋介氏により「IoT時代のサイバーセキュリティ政策」というテーマで基調講演が行われた。



総務省サイバーセキュリティ統括官付参事官 赤阪晋介 氏

5Gなどの通信ネットワークの進歩でIoTが今後普及していく。近年IoTを狙った攻撃が急増し

ている(2017年のNICTERの観測ではIoT機器への攻撃が全体の半数以上)。総務省におけるIoTセキュリティの対策として「IoTセキュリティ総合対策」「IoTセキュリティ総合対策プログレスレポート2018」が公表された。総務省の取り組みとして、現在使用されているIoT機器への脆弱性検証(NOTICE: National Operation Towards IoT Clean Environment)や、来年から製造販売される製品に対してIoT機器の技術基準の見直し(セキュリティ要件)、研究開発、企業に対する情報開示・情報共有(ISAC)、人材育成、国際協力に関する取り組みなどが述べられた。

## 講演メイン①

情報セキュリティ大学院大学学長 後藤厚宏 氏により「Society5.0に向けたサイバー・フィジカル・セキュリティ対策の取組み」というテーマで講演が行われた。



情報セキュリティ大学院大学学長 後藤厚宏 氏

Society5.0の実現に向けて、重要インフラのセキュリティ確保(第1期SIP)やサービスのセキュリティ確保(第2期SIP)における技術開発などについて議論された。

大規模で長寿命なシステムで支えられる重要インフラのセキュリティ技術はまだ存在しない。そこで、インフラ事業者と密に協働し、設備のセキュリティ耐性の強化(システムの真贋判定や異常検知など)や現場の人材の育成を行っている。

サイバー犯罪では日本では年間約3兆円の経済損失があると言われてるが、IoTがサービスになるとさらに被害が大きくなると予想される。さらにサプライチェーンの中で混入、改ざん、漏洩などのリスク(サプライチェーンリスク)が存在する。現在、この問題に対して、2020年までにセキュリティ基盤を作り、実証実験などを行う予定である。